



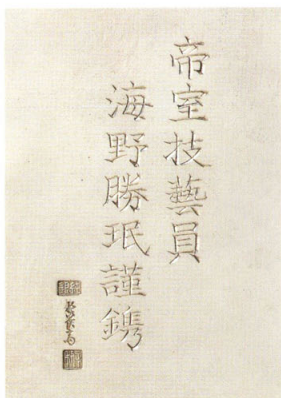
27 海野勝珉《丹鳳朝陽図花瓶》一對

大正四年（一九一五）銀・四分一／象嵌・高彫・片切彫ほか  
各D二〇・七、H四一・〇

「丹鳳朝陽」とは東洋絵画において瑞祥を示す伝統的画題で、丹色の鳳凰に旭日を描いたものである。それを主題とした本作も、御大礼の献上品に相応しい品格高い作品に仕上げられている。ただし、絵画では丹色（赤）で描かれる旭日や鳳凰の模様を、海野は金で表現し、金と銀の取り合わせで祝賀の雰囲気さらさら高めている。鳳凰は高彫、片切彫、毛彫のほか、四分一象嵌などで丁寧な羽を表し、桐は金の高彫象嵌で花を、片切彫で葉を表現している。旭日は表面の加飾もなく単純に見えるが、じつは難度の高い箇所、曲面の上に見事に平象嵌されている。本作も「長養齋」の銘があり、藤本萬作が素地を鍛造している。

海野は本作を製作した大正四年に没するが、鳳凰や桐に見られる彫刻表現は、最晩年の作にしては非常に力強さが感じられる作品である。銘の比較による製作年代などの検討は、今後多くの作例を考察する必要があるが、例えば本作の場合、後掲No.30の二代海野美盛の銘の書体に非常に近いことが見て取れる。そうしてみると、本作の製作には、二代美盛あるいは、No.30の製作を補助した勝珉の四男・海野清が大きく関わっている可能性も考えられるのではないだろうか。

本作は大正四年の御大礼を祝して男爵藤田平太郎より献上された。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治の彫金―海野勝珉とその周辺

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 41

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年九月二十三日発行

© 2006, The Museum of the Imperial Collections